



ICER 2019

九州大学附属図書館付設教材開発センター年報

目次

はじめに	03
組織図	04
部門紹介	05
メンバー	06
研究紹介	08
プロジェクト紹介	22
MOOC 大規模公開オンライン講座	23
代表的研究者紹介ビデオ制作	25
文学部中国文学 史記を対象とした教材開発	26
文学部日本史学 宮中儀礼を対象とした教材開発	27
放射線治療のためのセットアップトレーニング支援システムの開発	28
歯科治療 歯学部歯学科目を対象とした教材開発	29
環境保全行動 学習ゲーム教材	30
その他 教材開発の取り組み	31
活動紹介	32
講義動画等の撮影・編集・公開	33
FD講習会開催	37
教材開発支援機材	38
学会・イベント等	40
刊行物	44

はじめに

教材開発センター長

岡田義広



2019年度は2011年4月に教材開発センターが設置されて9年目となります。2014年度まで4年間センター長としてご尽力いただきました藤村直美先生(情報統括本部・特任教授)からセンター長を引き継ぎ5年目の年となりました。教員は、昨年度着任されました大井京准教授、芳賀瑛助教、2017年度に着任されました石偉助教と私の教授1名、准教授1名、助教2名の体制です。テクニカルスタッフにつきましては、2015年度からご尽力いただきました上野敦子さんが契約満了で2019年3月末に、森淳也さんが2019年10月末にそれぞれご退職となり、後任として竹原憲一郎さんが10月1日付で、木佐貫浩司さんが11月1日付でそれぞれ着任され、昨年度着任されました田中啓太さんの合計3名の体制となりました。事務につきましては、昨年度着任されました山内聡子さんに事務補佐員として支援をいただいております。協力教員につきましては、前年度のすべての協力教員の皆さまに引き続きご就任いただきました。このような体制で本センターの業務を遂行して参りました。

教材開発センターの主な業務は、講義ビデオの撮影・編集・公開、MOOC(MassiveOpenOnlineCourse)の制作、本学代表的研究者紹介ビデオの制作、ICTを活用した電子副教材の開発およびその支援、著作権等電子教材の開発に係る各種講習会の実施です。新しい教職員体制でしたが、4～5月に集中した各種講習会、基幹教育セミナーや基幹教育院大学院講義プロモーションのビデオ制作等を乗り切ることができました。6年目となるMOOC制作では、昨年度から制作を開始した「豪雨災害とその対策-平成

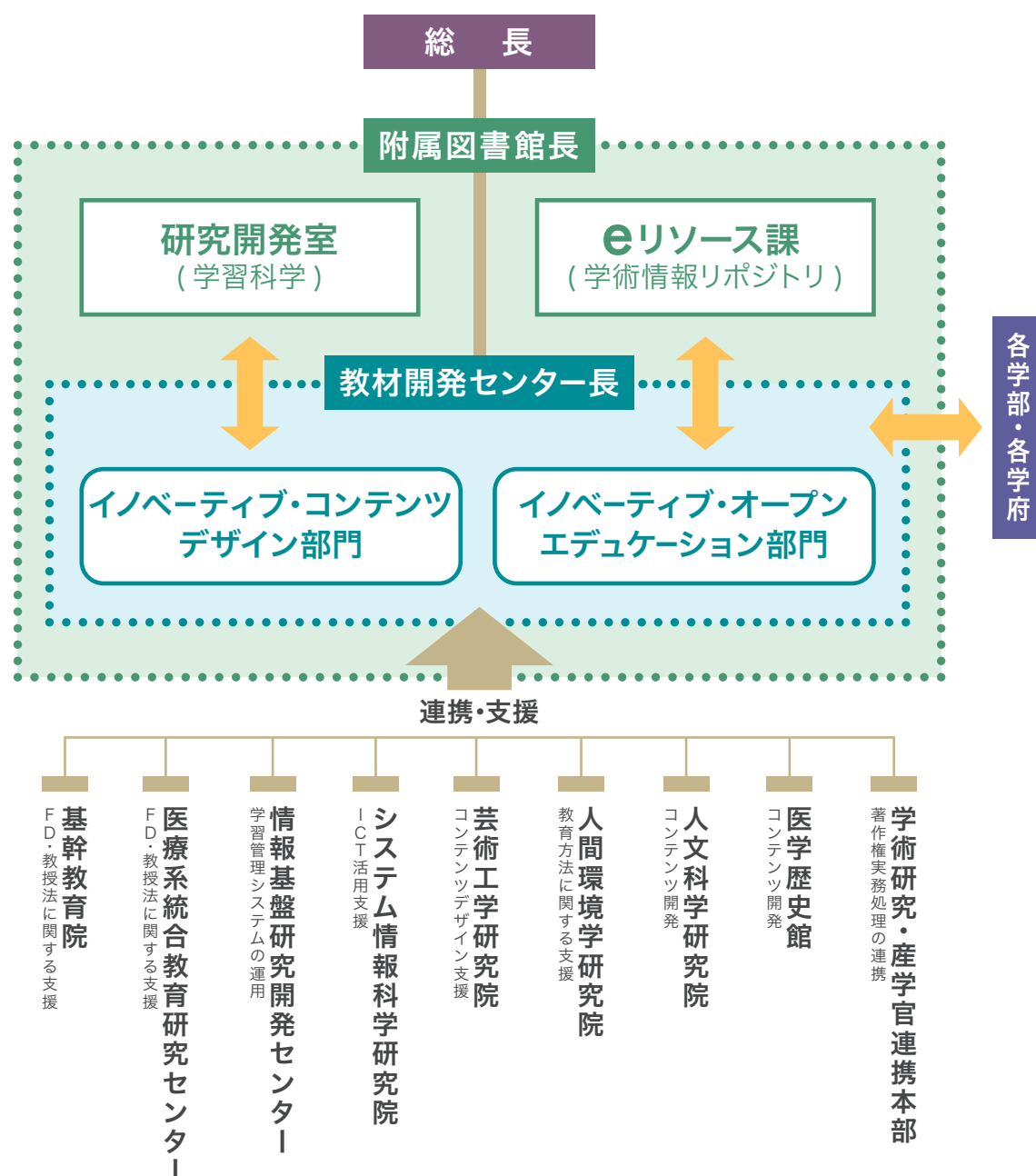
29年7月九州北部豪雨災害を例に-」(工学研究院附属アジア防災研究センター・三谷泰浩教授)を7月25日～8月22日にJMOOCから開講しました。受講者数は734名で、うち修了者数は413名で修了率は56.3%という非常にすばらしい結果となりました。また、4年目となる本学代表的研究者紹介ビデオの制作は、毎月2～3件の公開を目標に実施して参りましたが、昨年度末に代表的研究者の全紹介ビデオの撮影編集を終了いたしました。今年度後期から第二期の取組みを開始し、年度末にはすでに多くの代表的研究者の撮影が終了しております。来年度から編集に注力し広報室と企画しながら順次公開して行く予定です。さらに、ICT活用電子副教材の開発では、前年度に引き続き日本史学「宮中儀礼(除目)」・中国文学「漢文(史記)」の対話型ウェブ教材の開発、放射線治療装置操作トレーニング教材の開発等を継続実施しました。新たに、決断科学大学院プログラム学生・教員との協働による環境保全行動学習理解のためのゲーム教材の開発を開始しました。

新しい取り組みとして、6月と11月に「電子教材に係るニーズ調査」を実施しました。学内の先生方から電子教材の開発に係るご要望をお聞きし、本センターで対応可能なものについてご支援させていただいております。この調査から歯学読影演習教材や留学生向け日本語書き順演習教材の開発を開始しました。来年度以降も定期的に調査を実施する予定です。

今後も、学内の各種センター・部局等との連携を深め、学外の動向等も調査しながら、本学の学習環境の向上を目指して活動してまいりますので、引き続きご理解ご協力を賜れましたら幸いです。

組織図

ICER 九州大学附属図書館付設教材開発センター Innovation Center for Educational Resource

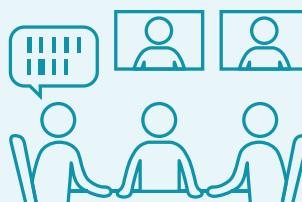


部門紹介

イノベティブ・オープン・エデュケーション部門

知の公共化による自律的な学習者を養成する教育方法と電子教材の開発

- 講義等ビデオ教材、代表的研究者紹介ビデオ、MOOCの制作
- インストラクショナルデザインに基づく教育方法、電子教材の開発
- 多彩なチャンネルによるビデオ等教材の公開
OCW、YouTube、iTunesPodcast、QIR、研究情報システムなど
- 著作権に関する電子教材開発者向け講習会等の開催



イノベティブ・コンテンツ・デザイン部門

最新ICTを活用した魅力ある電子教材の提供と開発支援

- 対話型3次元マルチメディアや競争原理(ゲーム性)の活用
- スマートデバイスやデジタル放送等の新技術に対応する教材の開発
- コンテンツの再利用と再編集を可能とする基盤技術の研究開発
- 高大連携による対話型電子教材の開発とその支援



メンバー

専任教員

教授	岡田 義広	センター長 / システム情報科学府担当
准教授	大井 京	
助教	芳賀 瑛	
	石 偉	

協力教員

協力教員	坂上 康俊	人文科学研究院 教授
	三木 洋一郎	基幹教育院 教授
	築山 能大	歯学研究院 教授
	金 大雄	芸術工学研究院 教授
	松隈 浩之	芸術工学研究院 准教授
	池田 大輔	システム情報科学研究院 准教授
	金子 晃介	サイバーセキュリティセンター 准教授
	麻生 典	芸術工学研究院 准教授
	菊川 誠	医学研究院 講師

運営委員

委員長	岡田 義広	教材開発センター長
委員	宮本 一夫	附属図書館長
	大井 京	教材開発センター 准教授
	三木 洋一郎	協力教員 / 基幹教育院 教授
	川原 弘一	学務部長
	瓜生 照久	附属図書館事務部長



研究紹介



活動概要

「3次元グラフィックス応用ソフトウェアに関する研究」

ソフトウェア部品の再利用性を高め、アプリケーションソフトウェアの開発コストを下げるためには、どのようなコンポーネントをどのようなフレームワークで結びつけばよいかというソフトウェアアーキテクチャーの研究を行っています。特に3次元CGアプリケーション開発支援のためのソフトウェアアーキテクチャーの研究を行っています。また、専門の知識のない人にも使える人にやさしいインタフェースをもつ計算機をつくりたいと考えています。ソフトウェアアーキテクチャーの側面から研究・開発を行っています。さらに、インターネット

の普及により、時間や場所に制限されることなく、種々の情報を容易にやり取りできるようになりました。計算機により支援される種々の知的作業を複数の人で協調して行える環境をつくりたいと考えています。最近では、ビデオゲームの開発支援環境やデジタルTVのデータ放送コンテンツ開発、教育用コンテンツ開発と学習者ログデータ可視化、および博物館におけるデータ提示技術やVR(Virtual Reality)/AR(Augmented Reality)の応用システムに関する研究開発を行っています。

theme

学術情報流通基盤としてのデータリポジトリに関する研究

keyword

ソフトウェア部品化, 分散システム, ヒューマンインタフェース, コンピュータアニメーション, 情報可視化

活動概要

「ICT 教育・学習と言語・非言語コミュニケーションの認知メカニズムに関する研究」

ICT(Information and Communication Technology)を利用した教育を対象として、教材と教育技術の開発、効果検証、および改善という実践と、その認知メカニズムの解明という基礎研究の両側面について、脳活動測定を含めた実験心理学の手法と、学習ログの分析等のラーニング・アナリティクスを活用した研究を行っています。最近では、大規模な公開オンライン講座である MOOC

(Massive Open Online Course)における講義動画の学習に関する認知メカニズムと教材改善の研究を行っています。また、言語・非言語コミュニケーションの認知メカニズムについても、二言語併用やジェスチャーの機能などに注目して研究を続けています。近年では特に、第二言語の運用と学習においてジェスチャーが果たす機能とその神経基盤に関する研究を行っています。

theme

学習ログと脳活動分析に基づく効果的な学習フィードバック方法の開発
ジェスチャーによる発話の促進効果とその神経機構
日本語と中国語の二言語併用者における言語間の干渉を低減する脳基盤の解明

keyword

ラーニング・アナリティクス, 教育・学習における ICT 活用, ジェスチャー, 二言語併用, 神経基盤

活動概要

「センシング技術を用いた学習『過程』の定量化、及び AI による学習行動の解析」

先端のセンシングデバイスを活用し、学習者の生体情報や多様な学習ログを基に学習の過程における行動の分析、および結果を蓄積、フィードバックする学習支援システムの開発研究を行っています。「アクティブラーニング」をはじめとする新しい教育手法の効果の検証においては、成果物などのアウトプットだけではなく、学習過程における学習者の内面的変化を定量的、かつ自動的に評価することが重要です。学習過程を評価する有効なツールとしてセ

ンシング、AI(機械学習)、に着目しており、評価の指標となる特徴量の抽出や、自動評価システムを開発することで、次世代の教育環境の構築に貢献したいと考えています。

近年では特に、機械学習をはじめとする AI による学習の評価と、実際の教員による評価との差異について関心を持っています。また、VR を活用した教材開発、学習の可視化についても研究を行っています。

theme

視線情報と機体操作ログに基づく VR フライトシミュレーション評価システムの開発

360 度カメラを使用したグループワーク評価支援システムの開発

生体情報を活用した技能習熟支援システムの開発

keyword

学習過程の解析, AI による学習評価, 生体情報計測, ラーニング・アナリティクス

活動概要

「ICT 技術を用い電子教材の開発とユーザの学習活動の分析に関する研究」

ユーザの興味を向上すると教育コンテンツを理解しやすくするために、ICT (Information and Communication Technology) 技術を用い、電子教材の開発と評価に関する研究を行っています。主に、Linked Data を活用し、2D と 3D グラフィックス技術と 360 度カメラなど先端デバイスを用いた VR (Virtual Reality) と AR (Augmented Reality) のウェブ教材の開発を進んでいます。共に、電子教材の開発効率を向上するために、新たな電子

教材開発フレームワークも提案と評価に関する研究も行っています。さらに、作成した教材を使用される時に、ユーザの学習活動データを収集し、ディープラーニング技術で可視化分析します。分析結果に基づき、電子教材を改良する研究も行っています。ほかに、学習効果を検証するための新たなクイズ生成できるフレームワークの提案と評価も行っています。

theme

ICT 技術を用い電子教材の開発とユーザの学習活動の分析に関する研究

keyword

E-learning, ラーニング・アナリティクス, ヒューマンインタフェース, コンピュータアニメーション, 情報可視化

活動概要

律令国家の成立・展開と中世国家への変容過程を、中国史や考古学の成果を取り込みながら追究している。また、教材開発センターの一員として、故

実書に記された官奏や除目等の儀式の動画化を進めている。

theme

「元岡 G 6 号墳出土庚寅年銘鉄刀製作の背景」

「日唐の格法典の編纂と体裁の特徴」

「入唐僧と刺史の印信」

「古代末期福岡平野における集落の変貌」

keyword

庚寅年銘鉄刀, 律令制, 敦煌・吐魯番文書, 儀式, 集落遺跡, 歴史資源情報可視化

三木 洋一郎

基幹教育院・教授

活動概要

PBL (Problem-/Project-Based Learning) や TBL (Team-Based Learning) などのアクティブ・ラーニングの手法を応用した、より効果的な教育方略の開発と、信頼性のあるアウトカム評価法の開発に取り組んでいます。また、これらに基づいて実際の授業科目を設計・実践しながら、改善を試みてい

ます。特に、現在、共創学部 of 先生方と協力して「協働科目」を中心に据えた " 共創的課題解決力を育成する教育モデル " の開発に取り組んでいます。基幹教育院・次世代型大学教育開発センターのメンバーとして、ファカルティ・ディベロップメントの企画開発と実践を行っています。

theme

共創的課題解決力を育成する教育モデルの開発と、それに基づく優れた教育実践の蓄積と活用

keyword

協働学習, 課題解決力, 教育モデル

2019.04 ~ 2022.03.

theme

課題探究・解決型協同学習プログラムの開発

keyword

協同学習, チーム基盤型学習法, TBL, PBL, ICT

2017.04 ~ 2021.03.

theme

チーム基盤型学習法のアクティブ・ラーナー育成に対する効果検証

keyword

チーム基盤型学習法, TBL, アクティブ・ラーニング, ピア評価

2016.04 ~ 2019.03.

theme

体系的なアウトカムベース教育プログラムの開発

keyword

アクティブ・ラーニング, チーム基盤型学習法, TBL, ICT

2013.01 ~ 2017.12.

活動概要

1987年に九州大学歯学部卒業以来、補綴歯科、口腔顔面痛・顎関節症ほかの歯科臨床活動に従事してきました。これまでに、日本補綴歯科学会、国際疼痛学会（IASP）のOrofacial Pain Special Interest Group (OFP SIG)、International RDC/TMD Consortium Network (Secretary、2012年9月～2015年3月)等の活動、日本顎関節学会の病態分類委員会等に参画し、国内外において補綴歯科治療、顎関節症・口腔顔面痛に関する診療ガイドライン策定等にも貢献してきました。2017年4月、九州大学大学院歯学研究院歯科医学教育学分野に異動し、歯学部における卒前

教育において、課題解決型学習（Problem based learning, PBL）やチーム基盤学習（Team based learning, TBL）を駆使した統合型授業を積極的に展開しています。また、日本歯科医学教育学会の国際化推進委員会委員として、歯学教育の国際化、標準化に取り組んでいます。現在、日本口腔顔面痛学会が国際疼痛学会（IASP）の支援を受け、IASP教育システム開発プロジェクトチームの一員として、“Construction of a Learning Management System for Orofacial Pain”のテーマで、eラーニングを軸とした教育システムの開発に参画しています。

theme

Construction of a Learning Management System for Orofacial Pain

keyword

e-learning, virtual patient, diagnostic skills, learning management system
2019.10～2022.05.

theme

補綴治療による咀嚼機能の改善を科学的に測る：咀嚼側に着目した咀嚼機能の包括的解析

keyword

咀嚼, 補綴治療, 咀嚼側, 咀嚼機能
2016.04～2022.03.

theme

口腔顔面痛の評価・管理における身体心理社会モデルの適用と有用性へのチャレンジ

keyword

口腔顔面痛, 心理社会的因子, 身体心理社会モデル
2016.06～2021.03.

theme

顎関節症およびブラキシズムに対するスプリント治療のランダム化比較試験（RCT）

keyword

顎関節症, ブラキシズム, スプリント治療, ランダム化比較試験, RCT
2009.04～2016.03.

活動概要

デジタルコンテンツ制作の分野は、CG、映像、WEB、デジタルアーカイブなど、複合的な表現領域であるため、幅広い分野に精通することが求められます。コンテンツデザインラボでは、多彩なデジタルコンテンツの生成や表現手法、及びその問題点

を探ってデジタルメディア表現の可能性を追求しています。また、それだけでなく、現在ある社会的なニーズを的確に捉え、それを満たすことができる包括的なデジタルコンテンツの設計を実践していくことを研究の中心に据えています。

theme

全周スクリーンを用いた新たな体感型映像コンテンツの提案

keyword

360度、実写映像、パノラマスクリーン

theme

歴史系博物館におけるゲーム性を取り入れた参加型展示支援システム

keyword

ミュージアムコンテンツデザイン

theme

ミュージアムシアター子ども視聴用における S3DCG の安全性を考慮した映像コンテンツ制作に関する研究

keyword

立体映像

theme

特別支援教育におけるデジタルコンテンツデザイン

keyword

特別支援教育、デジタルコンテンツ

theme

デジタルアーカイブを基盤とした世界遺産ガイドシステムの開発

keyword

デジタルアーカイブ、世界遺産

theme

シミュレーション映像を用いた新たな防災教育コンテンツの開発

keyword

シミュレーション、防災教育コンテンツ

活動概要

「リハビリ・ヘルスケアを目的としたシリアスゲームデザイン研究」

社会問題の解決を目的に据えたデジタルゲームである、シリアスゲームに関する研究、制作を行っています。近年は主なテーマを医療・健康としており、高齢者のリハビリテーションや、発達障がい児の自立活動を支援するゲームについて、現場の医療スタッフや小中学校の先生と共同で制作、検証活動を続けています。また 2020 年から九州大学にて起立 - 着席運動支援 iPhone アプリ『リハビリウム起

立の森』の配信を開始しました。

その他、デジタルコンテンツの構成要素である映像、アニメーションも活動領域としており、主催する国際アートコンペティション「アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA」をとおして、発表の場の創出、クリエイター育成をおこない、コンテンツ分野のさらなる発展に寄与しています。

theme

シリアスゲームデザインに関する研究 (SGP: シリアスゲームプロジェクト)

keyword

シリアスゲーム, ゲーミフィケーション, リハビリ, ヘルスケア, 教育
2008~2020

活動概要

研究活動として、データの利活用を促進するという観点から、大きくわけて **1. 様々なデータを解析して利活用を促進する、2. データの共有や保存、解析しやすいデータベースの基盤を構築する**、の2つの研究を行っています。最近流行のサービスで例えば、Twitter のようなサービスに必要な機能を検証したり、実際にシステム構築を行ったりするのが後者で、Twitter でのつぶやきや follower の関係を解析し、有用な知識を抽出するのが前者です。前者の研究で、主に対象としているデータは、Web 上のテキストデータ、時系列データ（主に地球磁場に関するデータ）、サービスの利用ログ、ソーシャルグラフなどです。後者の研究は、主に、SNS をベースにした情報共有システムやその基盤技術（検索やデータベース）の構築、認証や認可に

関する理論的研究、（学術情報という観点から）機関リポジトリや電子図書館構築に関する研究を行っています。教育活動として、大学院システム情報科学府、理学部物理学科情報理学コース、工学部電気情報工学科の担当をしています。特に、人数の少ない情報理学コースでは、トランプを使ったアルゴリズムに関する講義（物理学科コアセミナー）を始め、一方向ではなく、学生さんが実際に手を動かし、体感できるような授業を目指しています。例えば、「データ科学」（前期水曜1限）では扇風機とストロボを使った回転数の測定の実習を通して、情報理論で重要なサンプリング定理を学びます。「データベース・情報検索」（後期水曜3限）では、スキーマの設計や検索アルゴリズムのアイデアを出して、自分たちで議論します。

theme

学術情報流通基盤としてのデータリポジトリに関する研究

keyword

データリポジトリ、機関リポジトリ、オープンサイエンス、オープンデータ
2013.01.

theme

データ科学的手法による科学的知見の発見

keyword

科学データ、機械学習、時系列データ
2010.01.

theme

Web マイニング

keyword

半構造化データ、ブログ、マイクロブログ、コミュニティ
1999.01.

theme

機関リポジトリに関する研究

keyword

機関リポジトリ、学術コンテンツ流通、教育研究支援基盤
2007.04.

theme

例外文字列発見に関する研究

keyword

例外パターン、スパム検出、ゲノム配列
2007.04.

theme

認証認可システムに関する研究

keyword

認証、認可、プライバシー保護、IC カード、導入コスト
2008.04 ~ 2011.03.

theme

電子図書館に関する研究

keyword

電子図書館、自動認識技術、RFID、利用者カード、プライバシー保護
2005.05 ~ 2008.03.

theme

文字列上の頻出パターンマイニング

keyword

文字列、部分文字列増幅法、ベキ分布、ジップの法則、スパム検出
2001.03 ~ 2013.01.

か ね こ こう す け
金子 晃介

サイバーセキュリティセンター・准教授

活動概要

1. サイバーセキュリティセンターにおける研究・

教育活動：安全なIoT空間を実現するセキュリティフレームワークの研究開発及びそのフレームワークを利用したアプリケーションの研究開発を行なっている。特にブロックチェーンの技術を利用したアプリケーションの開発に注力している。また、教育活動として、セキュリティを考慮して、ものづくりができる人材の育成を行なっている。

2. 大学運営に関わる活動：九州大学 CSIRT (Computer Security Incident Response Team) として、九州大学のサイバーセキュリティ対策業務に従事している。特に、九州大学の構成員（教職員）を対象としたセキュリティ教育に従事している。

3. 附属図書館（兼任）における研究・教育活動：ICTを活用した学習支援環境の構築及びラーニングアナリティクスによるインストラクショナルデザインの研究等の業務を遂行している。

4. ものづくり人材の育成活動：デジタルファブリケーション、メディアアート、ビデオゲームなどのアナログとデジタルを融合したものづくり教育を学内・学外の大学で実践している。また、企業と連携して、学内でのハッカソンなどを開催し、学生のものづくりを支援する教育活動を行なっている。

5. その他の社会貢献活動：国内・国外の開発者コミュニティを運営し、ものづくり人材の育成に貢献している。

theme

安全なIoTセキュリティフレームワークの研究開発

keyword

IoT, サイバーセキュリティ, ブロックチェーン

theme

ICTを活用した学習支援環境の研究開発

keyword

デジタル教材, インタラクティブ教材, ラーニングアナリティクス

活動概要

知的財産法を研究しています。現在までの主たるテーマは先使用権制度でしたが、現在は知的財産と占有に興味を持って研究しています。

また、デザイン保護法制の国際的調和の研究にも取り組んでいます。

theme

知的財産法

keyword

知的財産 先使用権 占有 デザイン 国際的調和
2014.04 ~ 2025.03.

活動概要

指導医養成、医療コミュニケーション教育、医学教育研究（指導医評価研究）、臨床推論教育、身体

診察教育、医学教育マネジメント

theme

EPAを基盤とした若手指導医養成プログラム開発研究
2017.04～2021.03, 代表者：菊川誠, 九州大学.
優れた臨床指導医の形成プロセス解明に関する探索的研究

keyword

指導医, 教育, 研修医, ファカルティーデベロップメント
2015.04～2017.03.

theme

初期臨床研修医の指導医評価表記入における評価プロセスに関する研究

keyword

評価プロセス, 指導医評価, 臨床指導医, 研修医
2014.04～2016.03.

theme

臨床指導医評価表(案)の信頼性及び構成概念妥当性の検証に関する研究

keyword

指導医評価, 日本, 信頼性, 構成概念妥当性
2013.06～2016.03.

theme

指導医評価表作成に関する研究

keyword

指導医, 評価, 研修医, Modified Delphi, face validity, 信頼性
2010.02～2013.02.

theme

優れた指導医の研修医への影響に関する研究

keyword

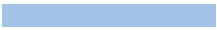
指導医, 研修医, 影響
2009.04～2012.03.

theme

良き臨床指導医の特徴に関する研究

keyword

指導医, 教育, 研修医, ファカルティーデベロップメント
2009.04～2012.03.



プロジェクト紹介

MOOC

大規模公開オンライン講座

教材開発センターでは、2014 年度より MOOC (Massive Open Online Courses 大規模公開オンライン講座) の制作と開講の取り組みを開始しました。2014 年度は、溝口孝司先生 (比較社会文化研究院・教授) と Claire Smith 先生を講師とする「Global Social Archaeology」を開講しました。2015 年度は、岡村耕二先生 (サイバーセキュリティセンター長・教授) の「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」と溝口孝司先生と Claire Smith 先生による「Global Social Archaeology: Expanded edition」を開講し、反転授業を実施しました。2016 年度は、都甲潔先生 (味覚・嗅覚センサ研究開発センター長・主幹教授) を講師とする「味と匂いの科学技術」を開講しました。2017 年度は、「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」を再開講し、また、丸山宗利先生 (総合研究博物館・准教授) を講師とする「昆虫学入門—多様性を探る—」の制作を実施し、昨年度夏季に開講いたしました。この年は、さらに、三谷泰浩先生 (工学研究院附属アジア防災研究センター長・教授) を講師とする「豪雨災害とその対策—平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害を例に—」の制作を開始し、今年度夏季に開講いたしました。



「豪雨災害とその対策～平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害を例に～」

概要

講師 三谷泰浩 (工学研究院附属アジア防災研究センター長・教授)
プラットフォーム Open Learning, Japan (JMOOC 公認プラットフォーム)
開講期間 2019年7月25日(木)～8月22日(木)

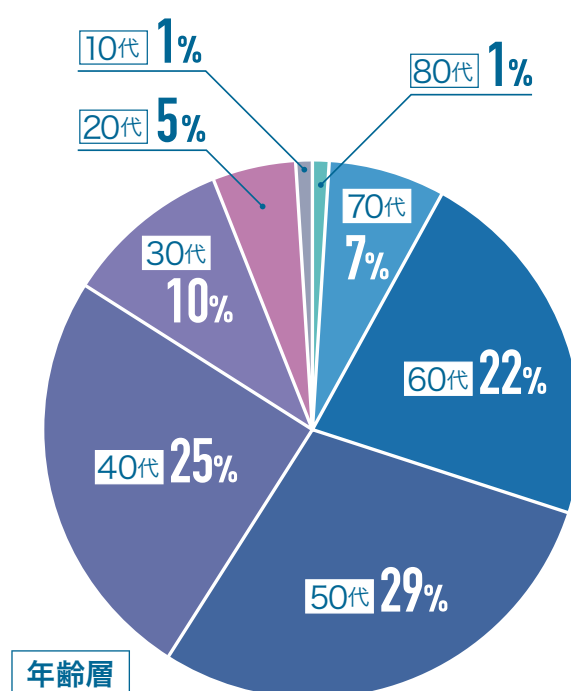
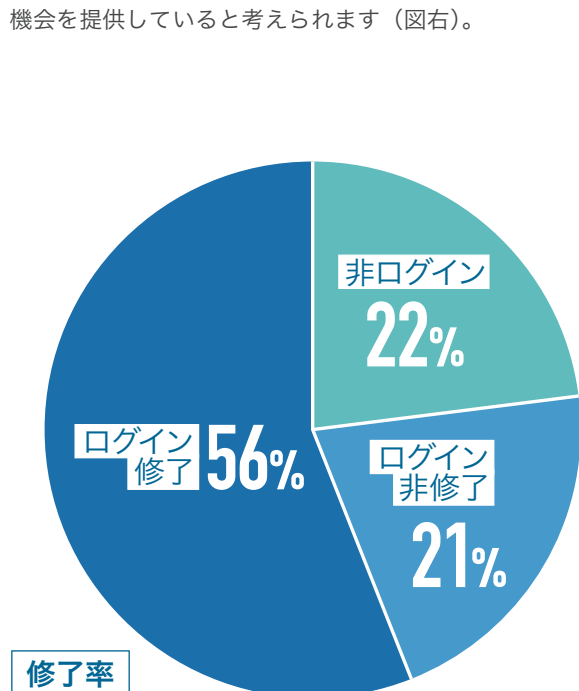
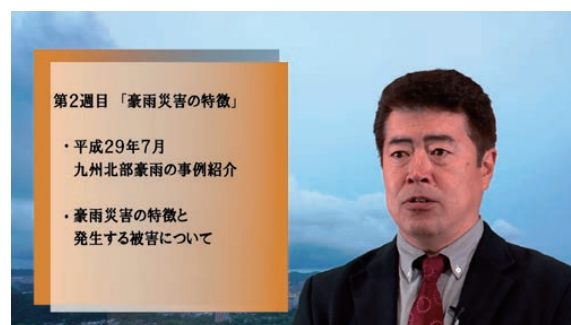
教材開発センターが制作した第 6 弾 MOOC 講座「豪雨災害とその対策—平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害を例に— (図 1)」は、九州大学大学院工学研究院附属アジア防災研究センターの三谷泰浩教授が講義をご担当になり、2019 年 7 月 25 日～8 月 22 日にわたり JMOOC において開講しました。豪雨災害に着目して、三谷先生が関わって来られた平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害での事例を交えながら、災害の意味、防災の意味、そして災害が終わった後の復旧・復興について学びます。



結果

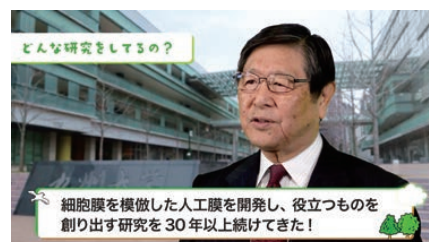
まず受講者数と修了者数についてですが、受講者数は、734 名であり、うち修了者数は 413 名でした。修了率は 56.3% という、非常に高い値を示しています（図中）。この値は九州大学がこれまでに開講した講座の中で最も高く、さらに、利用したプラットフォーム（OpenLearning）で開講された講座の中でも最も高い値だそうです。近年の日本国内外における自然災害の頻発によって、災害対策への関心が高まっていることを反映しているのかもしれませんが、また、受講後のアンケート調査におけるコース評価に関しても、「大変満足」と「やや満足」を合わせて 92.3% という非常に高い評価を受講生の方から頂いています。

本講義は、日本国内の豪雨災害をテーマとしたものでしたが、受講者は、英国、フィリピン、ドイツ、オーストラリアなど、世界の多様な国から計 16 名が受講しており、国外の受講者であっても、一般的に言われる MOOC での 10% 以下という修了率（e.g., Alrami & Ciganeck, 2015）よりも高い 37.5% という修了率を示していました。最後に、受講者の年齢層は、40 代以上の受講者が 80% 以上を占めており、本講座が生涯教育に貢献し、社会人に九州大学での学びを体験する機会を提供していると考えられます（図右）。



代表的研究者 紹介ビデオ制作

■ 本学の研究レベルの高さを広く国内外にアピールするための研究者紹介ビデオの撮影・編集・公開に取り組んでいます。



活動概要

教材開発センター所有のスタジオと、映像教材制作のノウハウを活かし、本学を代表する先生の研究内容とその魅力をわかりやすく伝えるビデオを制作しています。ビデオは九州大学公式 YouTube のほか、特設サイト「先生の森 森の映画館」で公開しています。また、日本語・英語字幕を付け、九州大学の研究レベルの高さを世界に広くアピールします。各部局から推薦いただいた28名の先生のビデオを制作しています。

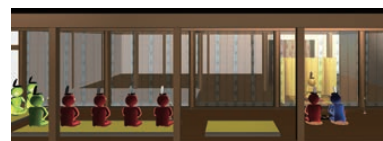
2019年度の取り組み

今年度前半は、11名の先生方のビデオ撮影を、スタジオや先生の研究室で行いました。このうち9名の先生の動画を、特設サイトで公開しました。各部局から推薦いただいた先生方のほとんどを年度末までに公開しました。また、今年度後半は、新たに各部局から推薦いただいた先生方のビデオ制作（第二期）を開始しました。ほとんどの先生方の撮影を年度末までに終了しており、来年度から広報室と連携して順次公開して行く予定です。



文学部日本史学 宮中儀礼を対象とした教材開発

文学部が実施した EEP(九州大学・教育の質向上支援プログラム)「文系ディシプリン科目教科書・副教材の開発(人文学教育カリキュラムの充実を目指して)」(期間:2013~2015年度)との連携活動の一つとして、2014年度から、人文科学研究院 坂上康俊教授の研究室メンバーと協働で日本史学(宮中儀礼)に関する副教材の開発を実施しています。



活動組織

坂上 康俊	人文科学研究院 教授
山下 洋平	人文科学研究院 専門研究員
竹井 良介	人文科学府 OB
岡田 義広	教材開発センター長
石 偉	教材開発センター 助教
平山 大貴	システム情報科学府情報学専攻修士1年

活動概要

宮中の儀式の様子を紙の媒体だけで学習するのではなく、3次元CGアニメーションや3Dプリンターで出力された建物のモデルを見ながら学習することで、学習内容をより深く理解でき、学習対象に興味を沸かせることができると考えています。3次元CGアニメーションを表現するために、種々の故実書や論文等から情報を収集し内容の精査を行いながら、その時代の建物の形状モデル作成を行う必要があります。登場人物の動線や振る舞いについてもデータ作成を行う必要があります。当該の教材は、Webコンテンツとして開発し、Web上で順次公開していきます。

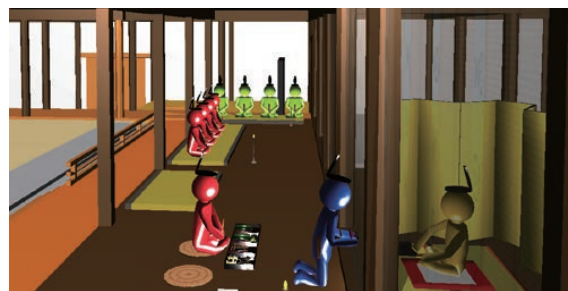


2019年度の取り組み

2016年度から開始している平安時代の「除目」とよばれる諸官を任命する3日間に渡る宮中儀礼の様子を3次元CGアニメーションで再現する対話型電子教材の開発に今年度も取り組んでいます。第1日目の儀礼が完成しました。WebGLという技術による閲覧システムの完成度も上がり、任意のウェブブラウザで閲覧し学習することができます。2014年度~2016年度まで実施した「官奏」とよばれる宮中儀礼よりも登場人物の振る舞いが細かく、それを表すアニメーションデータの作成に注力しています。

研究業績

Daiki Hirayama, Wei Shi, Yoshihiro Okada : Web-Based Interactive 3D Educational Material Development Framework and Its Authoring Functionalities, Proc. of the 22nd International Conference on Network-Based Information Systems (NBIS-2019), Springer(Advances in Intelligent Systems and Computing 1036), ISBN 978-3-030-29028-3, pp. 258-269, September 2019.



文学部中国文学 史記を対象とした教材開発

九州大学人文科学研究院の先生や学生の方々との連携活動の一つとして、高校生を対象とした漢文題材を効果的に学習できる教材を研究開発しています。

活動組織

静永 健 人文科学研究院 教授
長谷川 真史 人文科学研究院 専門研究員
栗山 雅央 人文科学研究院 専門研究員
種村 由季子 人文科学研究院 専門研究員
井口 千雪 人文科学研究院 講師
石 偉 教材開発センター 助教
金子 晃介 教材開発センター 協力教員

活動概要

九州大学人文科学研究院の先生や学生の方々と協働で、高校生を対象とした「史記・荊軻列伝」の漢文題材を効果的に学習できる教材を研究開発しています。「史記・荊軻列伝」は、中国戦国時代末の刺客・荊軻の伝説に関する文学作品です。これは、高校生が習う漢文の教材の中でもよく知られた題材です。本システムは、従来の紙ベースの教科書では実現が難しかった 2D・3D アニメーションやインタラクティブな操作による学習を盛り込むことで、教材の内容の理解を支援するためのシステムになっています。システムを開発する中で、漢文の文章の際には見えなかった細かな部分の動きなどが発見されるため、人文科学研究院の先生や学生の方々と議論しながらシステムの開発を進めています。

2019年度取り組み

「窮まりて匕首見はる」の中に記載されている物語を 3 次元アニメーションで再現する電子教材の開発を行いました。WebGL という技術を活用した教材は任意のウェブブラウザで閲覧し学習することができます。漢文と書き下し文と訳文を比較して閲覧できます。

研究業績

W. Shi, K. Kaneko, C. Inokuchi, M. Kuriyama, Y. Tanemura, M. Hasegawa, Y. Okada : VISUAL ANALYZATION OF HIGH-SCHOOL STUDENTS' ACTIVITIES WHEN THEY ARE USING 3D E-LEARNING CONTENTS, Proc. of 14th annual International Technology, Education and Development Conference, pp. 4522-4528, 2-4 March, 2020.



放射線治療のためのセットアップ トレーニング支援システムの開発

医学研究院の先生・学生と共同で、放射線技師が放射線治療を行う際に必要になる患者のセットアップの工程を体験的に学習できる教材を開発しています。実際の放射線治療装置は、治療のスケジュールやランニングコストの問題などから気軽に演習で利用できるものではないため、CG 等を利用して、安価でありながら体験的に学習できる教材を開発しています。



研究組織 開発チーム

藤淵 俊王 医学研究院 准教授
川内野 友則 医学系学府 修士 2 年
岡田 義広 教材開発センター長
金子 晃介 教材開発センター協力教員
黒田 幸太郎 システム情報科学府修士 2 年

研究概要

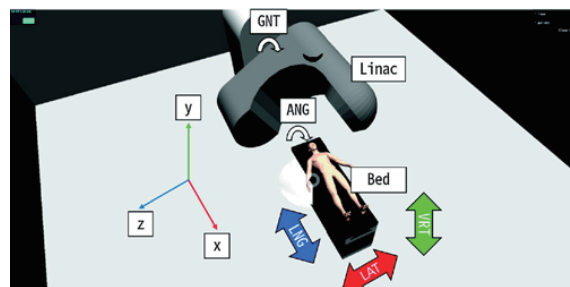
放射線治療は、がん治療の手法の一つで、外科手術のように患者の体を切開することなく、また抗がん剤治療のような副作用も少ないことから、注目されている治療の手法となっています。放射線治療では、患者のがん細胞に対して放射線を照射し、がん細胞を破壊します。この際に、他の正常な細胞に放射線が当たらない様に、患者の位置を正確にセットアップする必要があります。本支援システムは、放射線治療の際に、放射線技師が患者の体を適切な位置にセットアップできるように訓練するためのものです。訓練の内容としては、ファントムと呼ばれる人型のマネキンを利用して、位置情報と回転角度を計測し、正しい位置と角度で配置ができているかを確認します。ファントムには、傾きを計測するためのアプリが巻き付けられており、患者の体の回転角度を計測することができます。また、寝台操作を行う際の「ペンダント」と呼ばれるコントローラーを模倣したアプリを利用し、寝台を動かして患者の体の位置合わせも行います。患者の体の位置情報や回転角度は、セットアップ確認用のアプリケーションを通じて確認することができます。体感的にセットアップのトレーニングを行うことで、座学での学習よりも高い学習効果があると考えられています。

2019年度の取り組み

2018 年度には、患者の体の傾きを計測するためのスマートフォン・アプリ、セットアップ確認のための表示機能をもつ寝台操作用のペンダントを模倣したスマートフォン・アプリのそれぞれを Web アプリとして開発しました。今年度は、現実のファントムや寝台の代わりに、患者や寝台を 3 次元 CG モデルとしてスマートフォンのウェブブラウザに表示し、そのスマートフォンが挿入された VR ヘッドセットを装着して見える完全な仮想空間の中で、患者や寝台を操作する VR アプリケーションとして開発を行いました。

研究業績

Kotaro Kuroda, Kosuke Kaneko, Toshioh Fujibuchi, Yoshihiro Okada : Web-Based Collaborative VR Training System for Operation of Radiation Therapy Devices, VENO A 2019 in Proc. of the 13th International Conference on Complex, Intelligent, and Software Intensive Systems (CISIS-2019), ISBN 978-3-030-22353-3, Springer(Advances in Intelligent Systems and Computing, Vol.993), pp.768-778, July 3-5th, 2019.



歯科治療

歯学部歯学科目を対象とした教材開発

歯学研究院の先生・学生と共同で、治療演習や読影演習が行えるための対話型教材の開発に取り組んでいます。歯科治療の演習では、義歯を削ったりする必要がありますが、多くの義歯の購入が高額になったり、専用の演習室でなければ演習が行えないといった課題があります。学生が持っている PC で演習が行える教材の開発を進めています。



研究組織 開発チーム

築山 能大 歯学研究院 教授
岡田 義広 教材開発センター長
能美 雅貴 理学部物理学情報理学コース 4 年

研究概要

当センターの協力教員をお願いしています歯学研究院・築山能大教授のご協力を得て、歯学科目対話型演習教材の開発を開始しました。Phantom と呼ばれるハプティックデバイス（フォースフィードバックデバイス）を用いた対話型歯科治療トレーニング VR (Virtual Reality) システムを開発する予定です。システム情報科学府学生の協力を得てシステム開発を実施し、歯学部学生の協力を得てユーザ評価を実施しシステムを改善し、演習講義で活用できるシステムの開発を目指します。また、歯学研究院・岡村和俊助教のご依頼を受け、CT 画像や MRI 画像の読影演習のための e-Learning 教材の開発も開始いたしました。

2019 年度の取り組み

2019 年 6 月 14 日に馬出キャンパス・歯学研究院を訪問し、築山先生より歯学科目の演習講義について詳細を伺いました。2012 年に開発した Phantom を用いた対話型歯科治療トレーニング VR システムのプロトタイプを基盤として、歯を削る機能を改修し演習で利用できる精度を目指して開発を進めています。また、7 月 9 日には、岡村先生の研究室を訪問し読影演習の詳細を伺いました。ウェブブラウザで利用可能なウェブコンテンツとして読影演習コンテンツの開発を進めています。

研究業績

なし



環境保全行動 学習ゲーム教材

6 月より九州大学決断科学大学院プログラムの学生・担当教員と連携して教育用ゲームの開発を実施しています。今回開発している教育用ゲームは、環境問題を扱ったもので、無駄なエネルギー消費を抑える行動の学習と実践により、CO2 削減等の環境保全を図るものです。

活動組織

Firouzeh Javadi	持続可能な社会のための 決断科学センター 助教
Reihaneh Morid	大学院工学府
Nuren Abedin	大学院システム情報科学府
池田 大輔	システム情報科学研究院 准教授
岡田 義広	教材開発センター長
石 偉	教材開発センター 助教
山村 光	システム情報科学府

研究概要

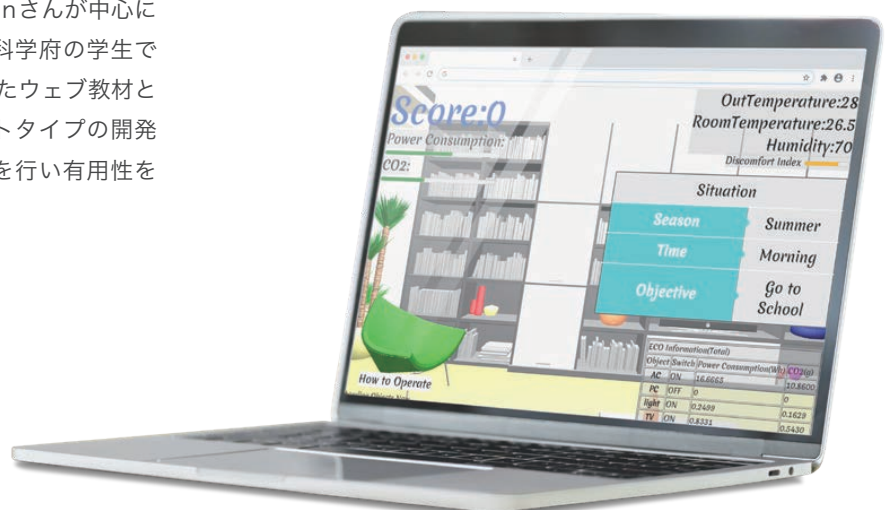
無駄なエネルギー消費を抑える環境保全行動の学習と実践は、幼少のうちから身に着けることが重要です。ゲーム性を取り入れた教材の提供により、年少者でも遊びながら環境保全行動を学習できるものと考えられます。決断科学大学院プログラムの学生である Reihaneh Morid さん、Nuren Abedin さんが中心にアイデアを出し、それをシステム情報科学府の学生である山村光くんが 3 次元 CG を活用したウェブ教材として実装を進めています。評価用プロトタイプの開発の後、ウェブ公開し教育効果等の評価を行い有用性を高めていく予定です。

2019 年度の取り組み

月 1 度の定例ミーティングを行い、ゲーム教材の仕様を決定しました。家での生活における無駄なエネルギー消費を抑えることを目的とするロールプレイ型ゲームとし、3 次元 CG によるウェブコンテンツとして開発を進めました。

研究業績

なし



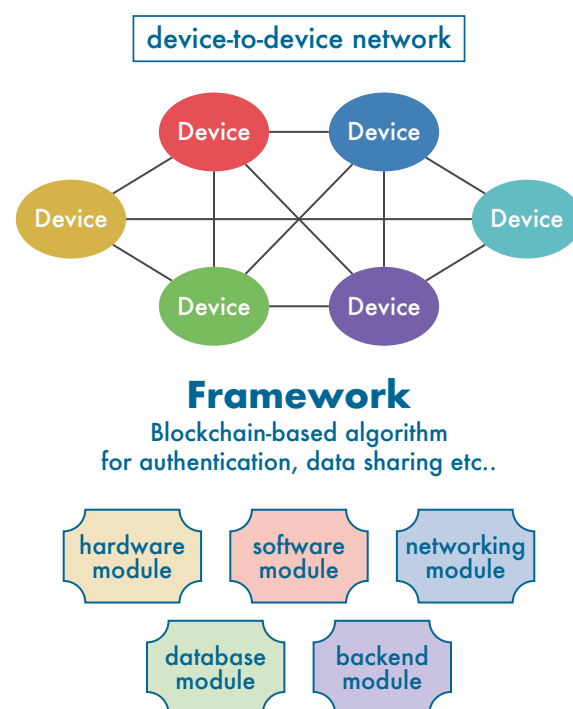
その他 教材開発の取り組み

教材開発センターでは、九州大学内外問わず、3次元CG等のICTを活用した対話型電子教材の開発とその支援を積極的に行い、広く利用してもらう取り組みを実施しています。今年度の取り組みとして、九州大学サイバーセキュリティセンターとの連携した「IoTセキュリティ」教材の開発があります。

九州大学サイバーセキュリティセンター（センター長：岡村耕二教授）が中心となり、インド工科大学デリー校とのJST戦略的国際共同研究プログラム(SICORP) [<https://cs.kyushu-u.ac.jp/sicorp/>] に本センターの教員および協力教員が参画しております。本プログラムのテーマは「安全なIoTサイバー空間の実現」に向けて、本センターは教材開発を担当しています。Linked DataやWebGLと呼ばれる技術を使ったWebブラウザ上で3次元CG表現された教材です。スマートホームの3次元CG空間でスマートスピーカなどのIoTデバイスを発見し、どのような攻撃と被害があるのかを学習するというものです。また、360°VR画像を使ったWebブラウザ上で学習できる教材の開発も実施しています。

本センターでは共創学部との連携の下、九州大学における教育の質向上支援プログラム(NEEP)の一環として「グループディスカッションの定量的評価AIの開発」を目指し、研究を行っています。本学ではTBL、PBL型授業を通じてアクティブラーナーの育成を推進していますが、中核となるグループディスカッションの評価については、これまで教員による主観的評価や提出物の採点などに依拠する所が多く、客観的かつ定量的な指標による評価が求められてきました。

本センターでは最新かつ低コストの収録システムを通じて膨大なディスカッションの実践例を収集し、映像や音声の特徴量をもとにディスカッション時の参加者のパフォーマンスを個別に評価することのできるAIを開発することで、教員によるアクティブラーニングの実践を広くサポートし、学生に対して定量的な指標に基づく公正なフィードバックを届けるシステムを実現したいと考えています。AI開発の進捗について続報をご期待ください。





活動紹介



ICER2019年度 講義動画等の撮影・編集・公開

学生向けの講義や学内関係者向けの講習会、外部講師による講演などを撮影・編集し、依頼者の要望に応じて Youtube、iTunesU(iTunesPodcast)、OCWなどで公開しています。公開された動画はどなたでも視聴することができ、大学の授業を体験することができます。興味がある科目があれば、自分のペースでいつでも学習することができます。

教材開発センターでは、年間を通してさまざまな形態の撮影を行っています。毎週の講義を撮影することで、学生がやむを得ず出席できない場合や復習したい場合、動画を利用して自主的に学習を進めることができるような学習環境の整備を行っています。また、各種講習会を撮影した動画を対象者へ配信することで、特定の実験や業務に従事するために必修となる講習会を効率的に受講することができるような体制づくりにも貢献しています。

講義や講習会そのものだけでなく、講義の内容を学生に分かりやすく伝え履修希望者を募るために、基幹教育科目等のビデオシラバス（科目紹介ビデオ）の制作や、学内の進学者・学外からの入学生向けに新専攻や新コースの紹介用ビデオの制作も行っています。また、九州大学では「未来創成科学者育成プロジェクト（QFC-SP）」として、グローバルな科学的思考力を持つ人材の育成を目標に、九州・

山口の高校生を選抜し、各分野で実践的な教育を行い、課題解決能力をさらに伸ばしていく教育プロジェクトを行っています。教材開発センターもこのプロジェクトに参画しており、復習用の講義ビデオの制作と配信、各種の教育データの分析を担当しています。さらに、コロナウイルスの世界的な蔓延により、通常開催が困難となった卒業式を、本センターでライブ配信、360°の映像配信という形で実施いたしました。360°映像配信はアプリを通じて臨場感のある映像でご覧になることができます。学生を中心に、視聴者は3日間で8187人、九大チャンネルの登録者も1373%増えました。

2019年度にYouTubeで公開した動画は、限定公開を含め144本です。また、会場・現場へ赴き撮影を行った回数は、91回にのぼります。今後もより高品質な動画教材の制作を進めていき、九大の魅力を世界に発信していきたいと思います。

映像教材制作・公開実績

 = YouTube  = 公 開
 = iTunesU  = 限定公開

タイトル	講師			その他	備考
講義(前期)					
バリアフリー支援入門	田中真理教授			学内利用	編集
漢方医薬学～漢方治療が有効だった患者さんの体験談～	斎藤美代子准教授	●		学内利用	編集・公開
データサイエンス技法演習	和田 陽一郎客員准教授	●			撮影・編集・公開
アクセシビリティ入門	田中真理教授			学内利用	編集
講義(後期)					
ユニバーサルデザイン研究	田中真理教授			学内利用	編集
Cyber Seculity	王静芸助教	●		学内利用	撮影・編集・公開
東アジアの政治と経済	大賀哲准教授	●		学内利用	撮影・編集・公開
アクセシビリティ支援入門	田中真理教授			学内利用	編集・公開
調停法講座	入江秀晃准教授			学内利用	撮影・編集
大学の授業をデザインする	長沼正太郎講師			学内利用	撮影・編集
最終講義					
「難病に挑む」	吉良潤一教授	●			撮影・編集・公開
脳の不思議を科学する	飛松省三教授	○			撮影・編集・公開
教育社会学の修行と遍歴	吉本圭一教授	○			撮影・編集・公開
「所変われば品変わる」の四方山話	高木彰彦	●			撮影・編集・公開
現代フランスコントロール論の系譜	大下丈平教授	●			撮影・編集・公開
特別講義					
QFC-SP講義	各担当講師	●		学内利用	撮影・編集・公開
講習会					
平成31年度 X線取扱者新規教育訓練(日本語)	中島裕美子教授	●		学内利用	撮影・編集・公開
平成31年度 放射線取扱者新規教育訓練(日本語)	中島裕美子教授,他4名	●		学内利用	撮影・編集・公開
平成31年度 放射線取扱者新規教育訓練(予防規定・日本語)	中島裕美子教授, 松石武教授	●		学内利用	撮影・編集・公開
平成31年度 X線取扱者新規教育訓練(英語)	中島裕美子教授	●		学内利用	撮影・編集・公開
平成31年度 放射線取扱者新規教育訓練(予防規定・英語)	中島裕美子教授, 檜山敏明教授	●		学内利用	撮影・編集・公開
平成31年度 遺伝子組み換え実験従事者等に対する教育訓練	藤田雅俊教授,他4名			学内利用	撮影・編集
平成31年度 工学部等X線取扱者に対する放射線障害予防規定等講習会	出光一哉教授			学内利用	撮影・編集
TA基本講習会	丸野理事,他2名			学内利用	撮影・編集
動物実験教育訓練	小野悦郎教授			学内利用	撮影・編集
危機管理セミナー	服部誠氏	●		学内利用	撮影・編集・公開
海外渡航前危機管理講話	留学生センター 生田博子准教授	●		学内利用	撮影・編集・公開
発展途上国渡航者対象危機管理セミナー	稲村次郎特任教授,他4名	●		学内利用	撮影・編集・公開
ICTを活用した授業支援	木實新一教授, 藤村直美教授 島田敬士教授			学内利用	撮影・編集・公開

映像教材制作・公開実績

 = YouTube  = 公 開
 = iTunesU  = 限定公開

タイトル	講師			その他	備考
講習会					
化学物質の取り扱いに関するリスクアセスメント講習会	高田晃彦助教	●		学内利用	撮影・編集・公開
学外調査活動補助のために学ぼう(TA教育)	飯嶋秀治准教授	●		学内利用	撮影・編集・公開
倫理審査委員会・治験審査委員会 委員養成研修	河原直人氏 他4名			学内利用	撮影・編集
高圧ガス及び液化ガスを安全に取り扱うための講習会	環境安全管理課	●		学内利用	撮影・編集・公開
大学における研究データサービスに関するワークショップ(イリノイ大学)	附属図書館研究開発室			学内利用	撮影・編集
危機管理セミナー	服部誠氏	●		学内利用	撮影・編集・公開
令和元年度 放射性物質取扱者 再教育訓練(日本語)	中島裕美子教授	●		学内利用	撮影・編集・公開
令和元年度 放射性物質取扱者 再教育訓練(英語)	中島裕美子教授	●		学内利用	撮影・編集・公開
がんゲノムセミナー	ARO次世代医療センター	●		学内利用	撮影・編集・公開
M2B講習会	藤村直美教授 他2名				
FD					
課題協学科目FD	角俊雄教授	●		学内利用	撮影・編集・公開
新任教員FD	久保千春総長,他理事3名	●		学内利用	撮影・編集・公開
3ポリシーに関する全額FD	北原和夫名誉教授,木村崇教授	●		学内利用	撮影・編集・公開
英語によるSTEM教育に関するFD	工学部国際教育支援センター	○			撮影・編集・公開
講演会					
I ² CNER/パネルディスカッション	Prof.BB.Saha ,etc…	●		学内利用	撮影・編集・公開
I ² CNER Seminar series	I ² CNER渉外グループ	●		学内利用	撮影・編集・公開
第36回医学情報サービス研究大会記念講演	石野良純教授				撮影・編集・公開
九州大学 安全の日講演会	環境安全管理課	●		学内利用	撮影・編集・公開
ヴォーゲル先生とアジアの未来を語ろう	エズラ・ヴォーゲル先生 他	○			撮影・編集・公開
Qsapple2019	国際部		○ (PV)		撮影・編集・公開
情報ガバナンスと文理融合教育の課題	大賀哲准教授 他	●			撮影・編集・公開
吉野栄誉教授 特別講演会	吉野彰栄誉教授	○			撮影・編集・公開
説明会					
新入留学生オリエンテーション(前期)	国際部留学課			学内利用	撮影・編集
第3期法人評価に係る部局説明会	インスティテュショナルリサーチ室			学内利用	撮影・編集
Challenge Based Active Learningの紹介	カノン・ジェームズ准教授	○			撮影・編集・公開
第3期法人評価に係る部局説明会(第2回)	インスティテュショナルリサーチ室			学内利用	撮影・編集
動物実験棟に係る電子申請システム操作説明会	環境安全管理課			学内利用	撮影・編集
新入留学生オリエンテーション(後期)	国際部留学課			学内利用	撮影・編集
科研費学内説明会	佐々木裕之副学長,木戸秋悟教授			学内利用	撮影・編集
IASO R7 部局管理者説明会	環境安全センター	●		学内利用	撮影・編集・公開
IASO R7 一般ユーザー向け説明会	環境安全センター	●		学内利用	撮影・編集・公開

映像教材制作・公開実績

 = YouTube ○ = 公 開
 = iTunesU ● = 限定公開

タイトル	講師			その他	備考
説明会					
教員に係る業績評価及び新たな年俸制の導入についての学内説明会	人事部人事企画課			学内利用	撮影・編集
スポークスパーソン・ミーティング	広報室			学内利用	撮影・編集
履修ガイダンス	基幹教育教務係			学内利用	撮影・編集
E-learning教材					
1年生向けプレゼン講座	附属図書館学術サポート課	●		学内利用	撮影・編集・公開
その他					
ELEP報告会	国際教育支援センター	●		学内利用	撮影・編集・公開
UQ-KU Student Workshop & Closing Ceremony	国際教育支援センター	●		学内利用	撮影・編集・公開
第5回九州大学日本橋サテライトセミナー	産学官連携本部	○			編集・公開
iFデザインサロン in 九州大学	ラルフ・ウィーグマン氏	○		学内利用	撮影・編集・公開
合同研究進捗状況発表会	学務企画課	●			撮影・編集・公開
第2回パラメンタリーディベート教育国際研究大会	井上奈良彦教授 他	○		学内利用	編集・公開
Q ² PEC2019報告会	工学部国際支援センター	●			撮影・編集・公開
AO入試説明未来構想デザイン PV	芸術工学研究院	○			撮影・編集・公開
QFC-SP PV	副島雄児教授	●			撮影・編集・公開
超伝導紹介ビデオ	産学官連携本部			学内利用	編集
大学の授業をデザインする(ビデオシラバス)	長沼祥太郎	●			撮影・編集・公開
総長メッセージビデオ	久保千春総長				撮影・編集
公開依頼					
Cyber security seminar	附属図書館学術サポート課	●			公開
Expert Workshop on Sustainable Energy Transitions in Asia	Prof. Adrian Bejan,加藤之貴教授	○			公開
松原に	広報室	○			公開
Live配信					
令和元年度 九州大学 学位授与式	学務企画課	○			配信
スチール撮影					
鶴田先生生誕100周年記念フォーラム	田中賢教授				撮影

FD講習会 開催

電子教材著作権講習会

講師 岡田義広(教材開発センター長)

5月 2キャンパス

日時 2019年5月13日(月)10:30~12:00

場所 伊都地区(中央図書館4階講習会スペース)

日時 2019年5月13日(月)17:30~19:00

場所 病院地区(総合研究棟1階104セミナー室)

計13名

12月 2キャンパス

日時 2019年12月26日(木)10:30~12:00

場所 伊都地区(中央図書館4階講習会スペース)

日時 2019年12月26日(木)17:30~19:00

場所 病院地区(総合研究棟1階104セミナー室)

計9名

電子教材開発者向け講習会

講師 岡田義広、大井京、芳賀瑛、石偉(教材開発センター教員)

12月 1キャンパス

日時 2019年12月26日(木)13:30~15:00

場所 伊都地区(中央図書館4階講習会スペース)

計9名

教材開発支援機材

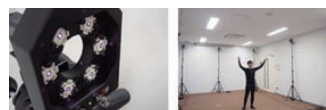
教材開発センターでは、2D/3D教材開発システムおよび講義収録配信システムを導入しており、利用を希望する教員へ機材の貸し出しを行っています。

2D/3D 教材開発システム

- デジタル顕微鏡



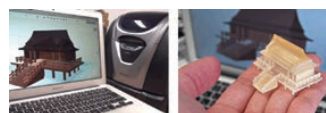
- 光学式モーションキャプチャー装置



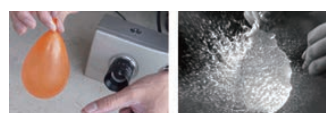
- 3Dスキャナー



- 3Dプリンター



- ハイスピードカメラ



- 視線追尾装置



360度 VR カメラ

- KANDAO Obsidian S
- Insta 360 Pro

詳細は、次のURLよりご覧ください：教材開発支援機材利用申込みフォーム
https://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast_use_apply



学会・イベント等

学会・シンポジウム等

2019年4月18日(木)～4月20日(土)

The 7th Int. Workshop on Cybersecurity

参加 三井ガーデンホテル熊本 教員3名(岡田義広、芳賀瑛、石偉)

2019年5月10日(金)～5月12日(日)

BIT's 6th Annual World Congress of InfoTech-2019

参加および発表 南京(中国) 教員1名(石偉)

2019年7月3日(水)～7月5日(金)

The 13th Int. Conf. on Complex, Intelligent, and Software Intensive Systems(CISIS-2019)

参加および発表 シドニー(オーストラリア) 教員1名(岡田義広)

2019年9月5日(木)～9月7日(土)

The 22nd Int. Conf. on Network-Based Information Systems(NBiS-2019)

参加および発表 大分大学 教員2名(岡田義広、石偉)、学生1名

2019年9月5日(木)～9月7日(土)

The 36th Annual Meeting of Japanese Cognitive Science Society

参加および発表 静岡大学 教員1名(大井京)

2019年9月27日(金)

教育基盤連携本部高等教育システム開発部門 シンポジウムオンライン学習の可能性と課題

招待講演 名古屋大学 教員1名(大井京)

2019年11月7日(木)～11月9日(土)

The 14th Int. Conf. on Broad-Band Wireless Computing, Communication and Applications(BWCCA-2019)

参加および発表 アントワープ(ベルギー) 教員1名(岡田義広)

2019年12月12日(木)～12月14日(土)

大学ICT推進協議会2019年度年次大会

ブース出展 福岡国際会議場 教員4名(岡田義広、大井京、芳賀瑛、石偉)
テクニカルスタッフ1名(田中啓太)

2020年2月24日(月)～2月26日(水)

The 8th Int. Conf. on Emerging Internet, Data&Web Technologies(EIDWT-2020)

参加および発表 北九州国際会議場 教員2名(岡田義広、石偉)

2020年3月2日(月)～3月4日(水)

14th Annual Int. Technology, Education and Development Conf. (INTED-2020)

参加 バレンシア(スペイン) 教員2名(岡田義広、石偉)

総会・委員会

2019年6月3日(月)

大学学習資源コンソーシアム(CLR)2019年度総会

出席 TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター 教員1名(芳賀瑛)



刊行物



ICER Newsletter

九州大学附属図書館教材開発センターだより



第38号 2019年4月発行



第39号 2019年6月発行



第40号 2019年8月発行



第41号 2019年10月発行



第42号 2019年12月発行



第43号 2020年2月発行

詳細は、次のURLよりご覧ください <https://www.icer.kyushu-u.ac.jp/pr>



|CER2019

九州大学附属図書館付設教材開発センター年報
発行：九州大学附属図書館付設教材開発センター